

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193400047		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	ファミリーケア本巢		
所在地	岐阜県本巣市三橋鶴舞98		
自己評価作成日	平成28年1月18日	評価結果市町村受理日	平成28年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2193400047-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2193400047-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ダイバーショナルセラピーの概念を取り入れ、自己実現に向けた取り組みを実践する為に、入居者のニーズの把握を行い、一人一人が自分らしく生きていける支援を実践している。認知症高齢者の集団生活ではあるが、今まで生きてきた個々の普通の生活に限りなく近づけ、施設高齢者とならないように配慮している。医療面では、連携病院からの訪問診療が月に3回、又、訪問看護ステーションからの看護師の訪問が月2回定期に有り、体調不良の際はいつでも駆け付けるシステムになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は医療・福祉の分野での歴史も古く、職員の質の向上に向けた研修も行き届き、たゆまぬ努力を重ね、常に時流に合わせた福祉の先駆者となっている。利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスの提供、残存機能を活かし可能な限りの自立を理念とし、自宅の生活と同じ日々を過ごすよう支援をしている。民家に隣接し、地域住民の日常の姿や公園から子どもの声が聞こえてくる環境にある。連携病院、訪問診療、訪問看護などの体制も充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	和光会の理念を掲示し、朝礼時に昭和しています。名札の裏に理念カードを携帯し、いつでも見直す事が出来るようにしている。又事業所の理念も玄関、ユニットにも掲示し、共有している。	法人の理念もあるが、グループホーム独自の「家庭的な環境・地域住民、家族との関わり・楽しい生活」を掲げ、職員の目に届く場所や玄関に掲示し、日々の取り組み、ミーティング、職員会議で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。小・中学校、又高等学校との交流に努め、触れ合う機会を実施している。。又、今年は施設でのもちつき大会では地域の方の協力がありました。	自治会に加入し、地域の公民館の文化祭には利用者の作品を提出したり、地域の高齢者とのふれあいや行事に参加している。ホームの行事には地元住民を招待し交流を深めている。高校生の福祉体験教室の場を提供し、利用者との交流を行っている。	地域の清掃活動の参加や、事業所の近隣周辺、公園など利用者と共に清掃活動をするなど、ホームからも地域に積極的に溶け込む取組に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、事例を基に認知症高齢者のケアの様子を伝え、家族の参加も促し認知症になっても安心して暮らせる事を家族に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に同施設で開催しており、自治会・行政・家族等に参加して頂き、活動報告書や行事等の取り組みを伝え、行政・自治会・民生委員・家族との質問や意見交換を行っている。	隔月に行政・民生委員・家族・医師の参加を得て開催し、事業報告、反省、問題点などについて意見交換している。広範囲の自治会からの参加があり地域高齢者の相談などを受け解決に繋げている。家族の参加を得られるよう工夫し年間の開催に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、事業所の現状報告を行ったり、質問や意見の時間を設けている。	困難事例、空き情報など行政とは日常的に意見交換をし、指導を得ている。行政主催の研修会、連絡会議に出席し、そこで得た情報等を利用者サービスに繋げている。運営推進会議の場でも助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内、施設外で研修や勉強会を行い、伝達に周知している。	身体拘束ゼロの取り組みを実践している。日ごろのケアを通じ、マニュアルを基に研修を行い職員と意見交換をし、具体的な場面を想定し話し合いをしている。利用者の心、行動を束縛することなく、利用者が「今したいこと」を待たせることなく、優しく寄り添う支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、更衣時、皮膚を露出する際、あざや傷が無い確認し、異常があれば理由を聞いている。又、研修、勉強会等で伝達研修にて周知している。		

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	朝礼やミーティングで話し合い勉強会を行っている。又、運営推進会議のメンバーに人権擁護委員を入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、経済的な不安や事故の可能性の有無、最後の時までの支援やサポートに至るまで十分に説明している。その際、退去の流れを説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、職員は状況報告と共に利用者の家族の要望や意見を聞いている。又、月1回家族へ利用者の様子を写真をつけて出している。家族と共に支え合う支援を行い、運営に反映している。	利用者の日常の様子を、職員が詳細に手書きし、ホーム便りと一緒にして、家族に手渡しするなどして、家族の意見や要望を聞く工夫をしている。家族の訪問時や、電話連絡の時にも要望や意見を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや朝礼時に職員の発信できる時間を設け、意見を聞いている。内容次第では改善に向け、実施している。	管理者もケアの現場を担当し、その場で職員の気づきや、提案を聞くことができ、職員との連携が密になっている。日常的に意見や要望を聞く機会も多くある。管理者は職員が安心して勤務できる体制を整え、職員の定着に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を聞く事ではほぼ全ての職員が自分の私用出来る時間を確保している。又個々に話を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア段位を導入しており、アセッサーによるOJT評価を実施しており、職員のレベルに合った研修や勉強会に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、情報を共有している。又、グループ内の同種事業所と連携し、書類の統一やシステムの統一など実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーより情報を得て、その情報を基に家族や本人にアセスメントを実施し、主訴や状況を把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居事前面談にて要望を伺う機会を設けている。又、本人の生活歴を活かせる対応をし、信頼できる関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、本人のにとって何が必要かをまず第一に考慮して徐々に安心した生活が送れる様、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃や洗濯畳み、食器拭き等出来る事を実施して頂き、過度な介入を避け共同生活とし成り立つ様な関係づくりを実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議報告書を配布している。又、面会時には状況報告し、一緒にお茶を飲んで頂く。家族会や行事への参加の声掛けを実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や知人が自由に訪問出来る環境を作りを実施している。本巢新聞を発行し毎月の手紙の中に近況報告や行事予定を伝える事で来所しやすくしている。花見や初詣など地域や行事に参加できるように取り組んでいる。	交通便の良い街中にホームがあることで、知人、親族の来訪が多く利用者と地元の話で話に花を咲かせている。家族と共に法事、誕生日に馴染みの店に出かけている。併設の小規模事業所利用者との新しい馴染みの関係が生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で食事やレクリエーションなど職員が間に入る等し、椅子やソファでテレビを見たりコミュニケーションがとれる環境作りを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、相談や悩み事について対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにおいて希望をお伺いしています。長年してきた事や、興味のある事を家族や本人の言葉に耳を傾け、ケアプランや本人の意思に沿う努力をしている。	入居前のアセスメントを活用し利用者の意向を把握している。入居後は、ホームの生活の中での会話や個別ケアの場で思いや意向を把握し、一人ひとりの希望の実現に努めている。家族からの情報は全職員で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントを行い、本人の生活歴は勿論家族関係を理解し、情報収集することで、生活環境を把握し、健康で自立した生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が今まで出来たこと好きだったことを引き出し日々の様子を観察し変化をミーティングで話し合い本人の意欲の向上に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ミーティングを行い、一人一人のケアについて話し合いを行い、職員だけでなく家族や本人の意向を尊重しつつ介護計画を作成している。	利用者の状態を把握している担当職員の情報、日々の申し送り、介護記録、家族、利用者の要望、医師の助言など取り入れ、全職員で検討し介護計画を作成している。計画作成後も家族と意見交換の場を大切にモニタリングにつなげている。見直しは臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に日々の様子を記入している。又、申し送り表で日々の情報や新しい気づきを共有し、介護計画の見直しを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を充実し、疾患の早期発見、早期治療できる支援を行っている。利用者の状況に合わせた対応を行い精神的に安心して暮らせるようその都度検討し配慮しています。又訪問看護ステーションの緊急時の対応も行っている。		

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人で行う行事に参加することで地域の方々と触れ合い、ボランティアの方との交流、又、文化祭への書道の出展等活性化を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院の主治医による月3回の訪問診察と、訪問看護ステーションから月2回の健康チェックが行われている。日常の様子や不調等の様子などの情報を書面で提供し連携を取りながら対応している。	契約時にかかりつけ医の選択肢を説明している。かかりつけ医の受診は家族が同行し受診内容の報告を受け、職員と共有している。24時間医療連携体制が出来ており、定期的な訪問看護もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、いつでも相談出来るシステムを作り、必要時、連絡が取れる状況になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院側へ入居者の情報を提供し、安心して入院治療が出来るようにしている。又、容態確認する為、治療中の訪問や地域連携や家族と話し合い早期退院に向け、支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針を提示し、説明を行っている。その指針を基に訪問看護と連携し、看取りの勉強会を行っている。	入居前に重度化や終末期対応の説明し、家族の了解を得ている。医療行為が伴う場合で、状態変化を早期に利用者、家族、関係者が十分に話し合い、対応をしている。終末期についてはの契約書を家族と取り交わしている。現在看取りの職員研修を取組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発生時、落ち着いて実践できるようにマニュアルを基に、定期的に研修を行っている。又、急変時の延命処置についての意思確認を家族に書面で得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、初期消火、通報、避難訓練を行っている。運営推進会議を通して、自治会との連携が出来る様、要請している。	年2回夜間想定を含む訓練を実施している。昼間、緊急時、火災を想定し詳細な避難場所、連絡網の取り扱いなど訓練を実施し、近隣との連絡体制の取り組みを進めている。水害や地震時の行動も関係機関等と連携を図る方向にある。	運営推進会議等で、事業所の防災訓練計画を議題に挙げるなどして、地域との連携体制の下で防災訓練が実現でき、事業所側から地域の防災訓練に参加するなどして、双方の協力関係が図れることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室には内側から施錠が設置されている。本人の意思により、施錠できる環境である。又、入浴時や排泄時にも配慮している。	利用者の人格を尊重し、会話、言葉かけなど誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。利用者が安心して過ごす配慮、支援、傾聴を日々職員間で話し合い、職員一人ひとりが笑顔での支援を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望が言えるような声掛けが出来る様配慮している。個別対応が出来る環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的な体操やレクリエーション等は声掛けするが無理に勧めず、本人の選択に任せ、好きな時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や趣味に合わせた服装で生活して頂ける様支援している。又、意思決定できる人には選んで頂く。爪や髭そり等可能な限り、自力でやって頂く等配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを囲み、利用者、職員と一緒に食事している。食事のメニューの会話をしている。食事は汁物以外作らないが、味見や米研ぎ、食器拭きなどを行って頂いている。	野菜を利用者と共に育て、食材に利用し旬の野菜を食している。職員も同じ食事を利用者と一緒に食べ次のメニューに繋げている。調理した物の匂いが漂う中で利用者ができる場所は手伝い、皆で食事を楽しんでいる。時には、利用者が決めたおやつと一緒に手づくりして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士がたてる献立に基づき食事が提供され、個々に食事量、水分量を記録し、把握している。水分量が少ない場合は他の飲み物等で脱水予防している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け。介助を行っている。入れ歯の洗浄、うがい等自力で出来る事は行って頂いている。日々習慣になっている。		

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、訴えが出来ない方には声掛け、誘導することで失禁の減少に努めている。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、声かけ、トイレ誘導し排泄の自立に繋げている。入居時、紙パンツの利用者もパッドを薄くするなどの支援が自立につながっている。夜間は安全面を配慮し、パッドを厚くするなど個々に合った排泄支援で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表で排便間隔を把握し、便秘時には水分補給を促したり、訪問看護師や医師と情報を共有したり、その人に応じた処方や処置を行っている。又、腹部マッサージなどを行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合った支援を行う中、温かいのが好きな方、ぬるめが好きの方等、温度を調整してその人の希望に合わせている。又、身体状態に合わせ、椅子浴を活用している。	入浴は週2回を原則とし、午前、午後利用者の希望に沿った対応である。入浴でリハビリ、残存機能を維持する工夫をし、個浴でゆったり入浴を楽しむ。職員は見守り、介助するなど利用者の負担に配慮した支援がある。重度化の利用者には機械浴が設置され、安心して入浴ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後等で個々に希望に応じ、休憩時間を設けている。外の明かりが気になる人には扉の窓を隠すなど配慮している。安眠の為に日中の活動する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作り、職員間で情報共有し支援を行っている。変化があれば医師や訪問看護に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な計算、塗り絵、歌、散歩、喫茶等個別プログラムへの参加や、家事を行ってもらうことで役割づくりの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ、本人の希望に添える工夫はしている。家族との外出、車を使用し神社や喫茶店を訪れたり、公園への散歩等の支援を行っている。	利用者の健康状態、天候に合わせて、散歩、外気浴など一人ひとりに適した支援をしている。また、家族の協力で個々の外出を楽しんでいる。年間を通じ、桜、紅葉、レストランでの食事会など外出を兼ねた行事をしている。	



岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つ大切さを理解しており、買い物に行ったりする時は、支払いが出来る人には会計して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、御家族に本人の写真付きの手紙で近況報告している。又、希望があれば、電話を掛けている。毎年年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じるようなカレンダーを飾り、窓からは公園や中庭が見える。中庭では、バーベキュー、冬は餅つき等イベントを開催し、利用者、家族、ボランティアも楽しんでいる。	空調設備も整い、広いフロアーにはソファが置かれている。壁に季節に合わせた利用者手作りの作品を掲示したり、季節の花を玄関、フロアーに飾っている。日中、利用者は各居室ではなくフロアーで寛ぎゆったり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファが配置されており自由に使用して頂いている。又、気の合った利用者同士会話も楽しんでいる。複数の訪問にも対応できる、居室が最適である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた物品の持ち込みが出来、利用者の状態に合わせた備品の配置や搬入に工夫している。	利用者の好みに合わせた居室であり、ベッド、整理ダンス、収納ボックスが置かれ、洗面台も設置されている。使い慣れた小物、鏡などを持ち込み、家族や風景の写真を飾り、季節の花も活け、利用者の好みで使いやすい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとなっており、表札も大きく見やすい位置に設置している。毎月のカンファレンスにて自立支援を目的とした協議を実施し、ケアプランに反映されている。		